

「高齢者乗車券」は医療介護予防

○市は、高齢者乗車券
今後、廃止予定。

・廃止による財政抑制
は、約11億円。

しかし、

○高齢者乗車券で、
医療介護予防により
元気高齢者が増加す
れば、約11億円以上
の効果あり。

※福祉など社会保障費
は増大傾向で、
予防策を実施すべき。

・市国保医療約1700億円

・市介護保険約990億円



今林ひであき

市政報告

【発行者】

福岡市東区
塩浜一丁目16-25
今林ひであき事務所
TEL. 092-605-6515



○九月議会で質問

質問

・高齢者乗車券は、約12万人の方が利用する制度で、将来の介護の世話にならないための大事な制度です。

・今、見直しすべきは、バラバラに提供されている福祉サービスを見直し、集約すること。
・平等で公平に提供できるようにすべき

市の答弁

・超高齢社会では、健康づくりや介護予防積極的な社会参加や支え合いが重要であり、再構築が必要。
・地域での生活を支援する仕組み作りに重点化していく。

地域での支え合いは、共助。

市が責任を持って実施するのが、公助

高齢者に効果的な施策

○高齢者の閉じこもりを防ぎ、外出機会が少なくなった高齢者を外出誘導、元気高齢者を生む施策

○高齢者の外出支援は、閉じこもりを防ぐ、体力的にも、精神的にも介護予防です

○また、70才以上の高齢者約20万人のうち、約12万人の方が利用する施策は 他にありません。多くの方が利用することは、高齢者の予防施策としても、税金の使い方としても、公平です。(所得制限で利用できない方もいますが)

○必要な施策だと思いますが、「おむつサービス」は、約三千人、「寝具貸し出しサービス」は、約百人の利用しかありません。

市の方針

「配る福祉」

から

「支える福祉」

へ転換

○見直しは、高齢者乗車券を、地域活動や健康づくり活動をされる「ボランティア」のポイント付与として、実施される方向です。

○なぜ、ボランティア活動の方に配布することに変えたのか「支える福祉」を担う方を、増やすためです。

しかし、

※ボランティアの方ほど、元気高齢者では？

○乗車券配布、目当ての実施は、ボランティア精神に失礼な話と思いませんか？

「バラマキ福祉」は見直し必要

「高齢者乗車券」は、「配る福祉」だから、廃止？

○市は「配る福祉」と「バラマキ福祉」を、混同。

○「配る福祉」でも効果あるものは、継続すべき

○一方、財政難を考えると「バラマキ福祉」は、見直しが必要です。

○確かに、「敬老祝い金」は、バラマキ要素もあり、見直しは止む無しか。
